

2026年3月期 第1四半期決算に関する主なご質問

- Q: 建築用ガラス事業の第1四半期の実績について、想定より良かった点および悪かった点を教えてください。
- A: 日本については、安定的に推移しましたが期待していた業績を若干下回りました。北米では、商業用不動産市場の需要が想定より弱く推移しましたが、7月に値上げをアナウンスしており今後の利益に結びつけていきたいと考えています。南米はアルゼンチンで事業環境が徐々に改善してきています。
- Q: 自動車用ガラス事業の第1四半期の実績について、想定より良かった点および悪かった点を教えてください。
- A: 全体としてはほぼ想定通りの実績でした。新車用ガラス事業を地域別にみますと、日本では米国関税の影響が想定より小さかったものの、今後影響がある可能性があるため引き続きお客様と緊密に連携をとって対応していきます。欧州では需要が回復しませんでした。補修用ガラス事業は引き続き堅調で、想定を上回り推移しました。特に北米において期待以上に販売数量/構成や販売価格が改善しました。
- Q: 第1四半期の実績が堅調にもかかわらず2026年3月期の上期業績予想を据え置いているが、第2四半期はどう見ているか？
- A: 建築用ガラス事業の事業環境に関しては、欧州の販売価格が継続して上昇しており今後も大きく崩れることは無いと見えています。自動車用ガラス事業に関しては、米国関税について合意に達したものの影響は今後出てくる可能性もあるため状況に注視が必要です。現状では補修用ガラス事業において競合製品との関税差でメリットを受けていますが、徐々に落ち着いてくると見えています。これらの不透明な状況を踏まえ現段階では上期および通期業績予想を据え置いています。上期業績予想の達成に向けて全社一丸となって取り組みます。
- Q: 第1四半期の実績を踏まえ、第2四半期の各事業の傾向はどう見込んでいるか？
- A: 建築用ガラス事業は欧州での販売価格の改善がしばらく続きますが、販売数量は大きく回復はしない見込みです。自動車用ガラス事業は新車用ガラス事業を補修用ガラス事業が補う状態が続くと見えています。高機能ガラス事業は大きな変化は見込んでいません。総じて第1四半期と同じ傾向が第2四半期にも継続する見込みです。
- Q: 2026年3月期の上期営業利益は100億円、下期は210億円の予想で大きく改善するが、どういった背景か？
- A: 上期下期の差についてはいくつか要因があります。建築用ガラス事業では、販売価格が徐々に回復すると見えています。自動車用ガラス事業では下期に販売数量が改善すると見えています。高機能ガラス事業では、タイミングのずれもあり下期に販売構成が改善することが見込まれます。また、コスト削減等の効果も見込まれており、自動車用ガラス事業でのリストラクチャリングの効果や小規模な改善活動の効果も今後徐々に発現する見込みです。
- Q: A種種類株式の一部が普通株式へ転換されているようだが、収益性を向上させ償還していくという方針に変わりはないか？
- A: 中期経営計画の前半期間（2027年3月期まで）においては、計画でも言及しています通り、収益性を向上させキャッシュ創出力を高め財務基盤を改善するという方針に変わりはありません。